

国の制度新設「容量市場」についてのご案内

電力事業を取り巻く市場環境は著しく変化しており、電力需要は今後も一層高まると予測されます。そこで、2024年4月より新たな制度として容量市場（容量拠出金制度）が導入されます。

◀ 電力事業を取り巻く市場環境 ・ 容量拠出金制度と電力市場価格への影響 ▶

■ 容量拠出金の概要（別紙参照）

容量拠出金制度の前提となる容量市場の概要とあわせて説明いたします。

○ 容量市場とは

容量市場は、将来にわたる日本全体の電力不足を防ぐための制度で、発電所が減少することを防ぎ、発電所を増やすために国民全体でお金を出す制度です。電気料金の安定化により電気を契約いただいているお客さまにもメリットをもたらすことが容量市場の目的です。

○ 容量拠出金とは

容量拠出金は、この容量市場という仕組みを支えるための費用です。容量市場というマーケットを介して、「電力会社」（小売）から「発電所」に分配されます。費用を負担するのは、電気の販売を行っている会社（小売電気事業者）ですが、消費者は電気代の一部として、容量市場拠出金を間接的に負担することになります。

◀ 新制度導入による今後の見解 ▶

2024年度から始まる容量拠出金制度が電力市場価格に与える影響について、実際に電力市場がどう動くのかは、始まってみないと何とも言えないものです。

今回ご案内しました弊社の電気料金単価見直しに容量市場（容量拠出金制度）の導入は含まれておりません。しかしながら今後、容量市場（容量拠出金制度）をやむを得ず反映せざるを得ない状況となることが考えられます。お客様に安定的に電力をお届けする為に避けることのできない制度であること、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。



市場価格の安定に期待！

2024年4月から本格始動 容量市場とは？

将来にわたる電力の供給力を確保する市場のことです。発電所等の供給力が全国でオークションにかけられ、2024年度のオークション落札総額は約1兆6,000億円となっております。そのうち1兆4,650億円を全国の小売電気事業者が電力供給の規模に応じて負担することとなります。

1 容量市場とは？

老朽化した発電所の維持管理が十分ではなく、需給ひっ迫時に電力を供給できず市場価格が高騰した背景があり、下記を目的として市場が創設されました。

2 容量市場の目的とは？

- ① 発電所の建設が適切なタイミングでおこなわれることで、将来の供給力をあらかじめ確実に確保すること。
- ② 供給力の確保によって電力価格の安定化を実現し、電気事業者の安定した事業運営や電気料金の安定化などの消費者メリットをもたらすこと。

3 容量市場本格運用開始後の電気料金は？

中長期的な視点から、供給力の減少に伴う卸電力市場の価格の高止まりを抑制する効果が期待されます。そのため、料金安定化のメリットが期待されます。

4 卸電力市場の価格推移イメージ



※2023年12月までは実績値、2024年1月以降は先物価格であり、お約束するものではありません

